

「あまみずグリーンインフラ検討委員会」（第 1 回） 議事要旨

- 日時：令和 6 年 8 月 28 日（水） 10 時～12 時
- 場所：東京都庁第二本庁舎 10 階 一般会議室 203

検討委員会での主な意見

○ 検討対象の位置付けについて

- ・ GI 施設*を各単体の点として評価するだけでなく、線・面的な展開も想定してネットワーク化されたシステムとして検討を進めることが必要。
- ・ 検討対象とした雨庭等の GI 施設*のメニューは良いが、各単体として評価を出せるレベルと、より大きいスケール（例：敷地単位、地区単位、流域単位）で評価を出せるレベルについて、どう扱うかを議論出来ると良い。

○ 手段・施策の方向性について

- ・ GI 施設*における“水の流れ”を分かりやすくすると良い。
- ・ GI 施設*の標準仕様にこだわりすぎると、広がりが出にくくなることが懸念されるため、自治体や事業者が地域の特性に応じて選べるような整理ができると良い。
- ・ 東京都雨水貯留・浸透施設技術指針への GI 施設*の反映においては、基本的な性能（貯留・浸透能力）を示しつつも、設置する地域毎で性能が異なるため、柔軟に使えるような技術指針であると良い。
- ・ 都民や事業者がどのような GI 施設*を選択すべきか相談できるアドバイザー制度や浸透適地マップのようなものがあると良い。
- ・ GI 施設*における運用・維持管理の手法について示していくことが必要。
- ・ GI 施設*の普及・啓発のためには、評価の高い取組だけを取り上げるのではなく、失敗事例なども集め、情報共有を図ることが大切。
- ・ 都市部では、不動産価値の向上につながるものが制度設計として良いが、全体を考えると環境認証など、企業価値の向上という視点が重要。
- ・ 自治体をはじめ、都民や事業者とのコミュニケーション（情報交換）の取り方が重要。
- ・ これまでの雨水貯留・浸透施設と GI 施設*の相違点を整理し、効果検証を進めることが重要。

○ 目指すべき目標と検討事項について

- ・ GI 施設*を含めた流域対策としての目標対策量の設定をすべきである。
- ・ 流域対策としての効果以外についても着目して検討を深めると良い。
- ・ ターゲットとしている人が取組を理解してもらうことがすごく重要。
- ・ 都民や事業者が参画できるものであるということを認知してもらう必要がある。
- ・ 地盤条件（地表面）に加えて、社会状況の違いなども考慮した地域に合わせた検討が必要。
- ・ 認知度の高いハザードマップと連動した見せ方や整理が有効。
- ・ 検討内容については、都庁内に情報共有を行い、検討が進んでいる自治体と情報交換のプラットフォームのような場を設けて議論すると良い。

〔 ※ GI 施設・・・雨水流出抑制に資するグリーンインフラ施設 〕